

第 6 回 作手地域協議会 会議録【要約】

日時	令和 6 年 9 月 6 日（金） 午後 7 時 3 0 分～午後 8 時 4 5 分	公 開	・一部非公開・非公開
場所	作手総合支所 会議室		
出席者	委員 1 8 名（欠席者 5 名） 事務局 3 名	傍聴人数	0 名
次 第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 情報提供</p> <p>3 報告事項 第 5 回会議録について</p> <p>4 議事 ・作手地域自治区予算事業計画（案）について ・次年度に向けた地域自治区予算事業の研究方法について</p> <p>5 その他 第 7 回作手地域協議会の日程調整</p> <p>（配布資料） 次第、第 5 回作手地域協議会会議録【要約】、R 7 年度作手地域自治区予算事業計画（案）、R 6 年度地域協議会スケジュール（案）、令和 6 年度作手地域自治区予算事業候補の検討資料、作手地域自治区予算事業 研究事業</p>		

1 あいさつ

会長より挨拶。会議録署名委員を平松委員、峯田委員に依頼した。

2 情報提供

作手小学校校長先生より学校、子どもの様子の情報共有があった。

事務局より木の駅プロジェクトのチラシを配布。

事務局よりインスタグラム運用について説明。

3 報告事項

第5回会議録を資料に振り返りを行った。新規事業について事業内容が可決された。

4 議事

・1. 作手地域自治区予算事業計画（案）について

会長 前回、前々回の会議で事業は決定している。今回は予算額を確認し、来年度の事業計画案として決定したい。

決定した案は協議会だよりをとおして作手地域内に各戸配布し、またホームページにも掲載して広報をおこない、案に対し住民の意見を募集する。事務局より補足説明をする。

事務局 金額が確定し、予算内に事業費が納まっている旨を説明。

若者定住奨励金交付事業について令和9年度ではなく10年度に終了する事を訂正。

住民への意見募集期間について9月15日（日）から9月30日（月）まで行うことを説明。

会長 金額が確定したので令和7年度地域自治区予算事業計画案について資料のと通りの事業計画案で良いか採決を行う。

全員挙手で決定とする。

※各事業は別紙参照。

・2. 次年度に向けた地域自治区予算事業の研究方法について

会長 前回の協議会でも話がありましたが、自治区予算事業の協議方法を改めていきたい。方法として柱の4つのテーマごとに班を分けて班ごとに事業化に向けた研究を行っていききたいと思う。今年度研究した事業は、次年度の協議会に引き継ぐことで、事業化に向けて研究する時間が確保でき、効率的な事業化が見込まれる。

6ページ資料が進め方のイメージである。

今後、交付金の検討事項もあるので平行して研究を行えばとおもう。意見質問をお願いします。

委員 詳しい説明をお願いします。

事務局 6ページ資料について説明。来年度の自治区予算の事業化に向けて今年度出た意見又は、新たに出た意見を今年度中から班に分かれて研究をしていきたい。今年度事業化に向けて時間が足らなかった事もあった。

具体的な方法について、4つの柱ごとに分かれて班ごとに研究を行う。研究内容については各班ごとに課題の優先順位を付けて研究を

行う。

委員 新しいまちづくり計画との関連は。

事務局 今あるまちづくり計画をベースに作っている。抽象的ではなく具体的な行動計画を考えている。

委員 現在のまちづくり計画は人口を目標にしている。新しい計画で目標が違えば行動計画もかわるのでは。

事務局 新しい計画では決定ではないが満足度を目標にしている。

委員 目標が違えば行動計画もかわるのでは。

事務局 年度当初から事業化に向けた協議を行うと時間が足りなくなる恐れがある。次の計画を中心に事業化を行うが、事前に今ある課題の協議を行えばと思う。

副会長 新しい計画ができればそちらの協議を行えばどうか。

委員 地域計画との整合性が保てないのではないか。

会長 12月、1月にグループに分かれたとして、次年度はどのように協議を行う予定か。

事務局 グループに分かれて協議していきたい。

委員 グループに分かれて話し合うと他の柱について意見ができないのでは。

事務局 班ごとに発表を行いその時に意見を言えればと思う。

委員 班を決められてしまうとその班のみしか意見を言えなくなってしまう。班ごとで話した意見に、範囲外の人が意見をするとまた時間がかかってしまう。

事務局 何か良い案はないか。
皆さんで協議すると多様な意見が出てしまうので、分かれてもらい事業を練って皆さんの意見を聞く形をと思っている。

委員 スケジュールを時間で班での協議、全体での協議で分けてはどうか。班の意見を全体で共有ができる。

会長 スケジュールの13回目は予定されているのか。

事務局 去年は13回目を行い、事務局から挨拶をさせてもらった。

会長 13回目にグループの総括を行い次年度へ引き継いではどうか。他の協議会の分科会があるところはどうに行っているか。

事務局 分科会は分科会で動いている。例えば自治区予算の分科会、交付金の分科会など。時折情報交換を行う。

会長 他の自治区の規模は作手と比べてどうか。

事務局 作手地区は多い方。自治区の規模によってもちがう。

会長 4月の協議会は会長等を決めたりする。協議を行うのは5月からなので事前に事業の研究ができていれば少し早いスタートがきれる。

委員 情報発信についてこれまで考えてきたのでこれからも関わっていきたいが、柱一つとなると別の柱になる。

事務局 協議会全体で話し合った方がよいか。

委員 今年度のように会議ごとに柱に対して班分けをしてはどうか。

委員 班ごとに議事録を残せば前回の話合いの把握ができる。

委員 班を固定すると意見の偏りが出る可能性がある。メンバーを入替えながらの方がいろんな意見が出るのではないか。

委員 どれくらいの物を考えているか。

事務局 8ページ資料をもとに説明。地域の課題に対しどのような目的で事業を行うか追求してほしい。

委員 メンバーを入替えながら話し合うと意見がまわってまとまらない事もあると思う。事業化に向けた話合いにならないといけない。

会長 例えば、班で固定するメンバーと入れ替えるメンバーがいてはどうか。

会長 5月6月に行っていたグループワークを今年度中に行うイメージ。

委員 まちづくり策定委員で検討している新しい計画が、作手住民皆さんにとってより良い作手となる計画になって欲しい。そのため多くの人の意見を聞いて欲しい。計画の目的も変わると思うので計画の繰り返しにならないようにしてほしい。

会長 これからは交付金関係が中心となってくるが自治区予算関係も5月6月のように協議していつてはどうか。

事務局 今後の話合い方法の提案だった。良い方法があればその方法で。

委員 柱を中心に考えなくてはいけないのか。

委員 目標が違えば柱が違ってくる。

事務局 12月中にはまちづくり計画を考えていく予定で動いている。9回目の協議会が12月に開催される予定なのでその時には計画を説明し改めて協議の方法を考えた方がよろしいか。

委員 まちづくり策定委員と情報交換をしてはどうか。

会長 来年度は10カ年計画の最初の年になるので12月の協議会で計画の勉強会をしてはどうか。

委員 研究する以前にバス通学のように結論が出ている課題もある。市営住宅を寮として利用することができれば通学ができるようになる。事業化に向けて研究すると聞くと期待はするが結局できないとなる。

事務局 研究した結果事業化が難しいものは難しい。

委員 視点を変えてできる方向を見つけて欲しい。

副会長 できることできないことを選別して考えることができる。

委員 テーマを決めて協議してはどうか。

委員 まちづくり計画が大きく変わってくるとは思えない。地域協議会は地域のことを考えて地域をよくする。今ある課題とあわせていくのはどうか。

事務局 いまある計画は行動計画が漠然としている。これは地域の課題を広く対応できるようにした意図があるが、計画の実績評価ができなかったので具体化した方が良い意見が出ている。

委員 安心して子育てができないのは地域の大きな課題。人口増加にも繋がる。

会長 10カ年計画を把握してから考えた方が効率的。12月の協議会で計画の勉強をする。その後、検討して次年度の協議会に申し送ることとしてはどうか。

事務局 策定委員会長に意見共有する。

5 その他

(1) 第7回作手地域協議会の日程調整

日時：令和6年10月11日（金）午後7時30分から

場所：作手総合支所 会議室

内容：パブリックコメントの結果確認

地域活動交付金の説明、募集時期の検討等

市長との意見交換会の運営、テーマの検討

【終了】